「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会ニュース・2025 年２月発行

つながる力

≪No.２９≫

奄美の土砂、辺野古に搬出を止めよう！

2025.12.5 琉球新報

奄美大島からの土砂搬出に反対する署名を始めた辺野古土砂搬出反対全国協議会の阿部悦子共同代表（中央）ら＝4日、県庁記者クラブ

全国署名開始を発表

辺野古土砂反対協　奄美搬出で

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会が4日、県庁で記者会見を開き、奄美大島からの土砂搬出に反対する全国署名を始めたことを発表した。11月20日から約2万通の署名用紙を全国関係団体へ郵送している。問い合わせや追加要望があるため、3万枚を追加で用意し準備ができ次第、署名希望があった個人や団体に郵送する予定。

会見を開いた全国連絡協の阿部悦子共同代表は「採石場近くにある奄美の集落では40年近く、作業によって海に赤土が流出し、深刻な環境被害を招いている」と指摘。2004年には採石場の山に亀裂が入り、周辺住民が3カ月間も避難する事態もあったという。「土砂が沖縄に搬入されれば、特定外来生物が持ち込まれる。新基地を造らせないことに加え、生態系の破壊を招くことも訴えていきたい」とした。

会見に同席した沖縄平和市民連絡会の北上田毅さんは「（激戦地だった）南部の土砂も、奄美の土砂も使わせない」と強調した。（玉城文）

全国署名にさらにご協力とご支援を

第二次署名集約は3月31日です

４月 10 日(木) 第一次署名提出＆防衛省交渉

昨年１１月下旬に開始した「奄美から辺野古に土砂を持ち込ませない」全国署名は２月 19 日までに、延べ 580 の市民・団体から 21,049 筆、電子署名に 1,696 筆、合せて 22,745 筆が寄せられています。さらに全国からご協力を得て署名数を積み上げたいと思います。これまで送られてきた署名には、怒りとともに、奄美の土砂が辺野古に搬出されようとしている事態が余りにも知られていないとのコメントが多く添えられてきました。友人・知人そして職場の同僚に事態を知らせて、署名にご協力をお願いして下さい。

全国署名には送料など多大な費用が必要です。署名をさらに広げるため、資金面でもご支援をお願いします。

４月 10 日に第一次署名提出を行ないます。合わせて防衛省交渉・院内集会を行ないます。10 日は 14：00 前までに、衆議院第二議員会館にお集まり下さい！主な日程は 16 頁をご覧下さい。

≪ 目 次 ≫

激化する奄美群島・沖永良部島の日米軍事訓練 ・・・・・・・・・・・・・・ 城村典文・・・・２～３
全滅状態の「奄美大島のソテツ」から考える ・・・・・・・・・・・・・・ 阿部悦子・・・・３～４
奄美の蘇鉄を思う ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 浦島悦子・・・・・・４
奄美大島に米軍オスプレイの低空飛行訓練ルート ・・・・・・・・・・・・ 湯浅一郎・・・・・・５
奄美市住用市集落から南西諸島の防衛と奄美大島の土砂問題を考える ・・ 森　紘道・・・・・・６
「最後の闘い」～戸玉区長の言葉～に、私たちは ・・・・・・・・・・・・ 立田卓也・・・・・・７
『沖縄報告　辺野古・高江 10 年間の記録』発刊！ ・・・・・・・・・・・ 沖本裕司・・・・・・８
大浦湾は海洋工事作業船のショールーム ・・・・・・・・・・・・・・・・ 中村吉且・・・・・・９
沖縄・奄美から西日本に拡大する「対中国戦争態勢」 ・・・・・・・・・・ 高井弘之・・・・・１０
奄美大島からの土砂搬出阻止が辺野古埋立てを止める ・・・・・・・・・・ 山崎真純・・・・・１１
宮城島土砂搬出へ市民の怒り！ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 照屋寛之・・・・・１２
足元に忍び寄る戦争　１月 17 日、名護市街地での軍事訓練を阻止 ・・・ 鈴木公子・・・・・１３
本部町からの報告　２月８日　パワフルなお話し会 ・・・・・・・・・・・ 原田みき子・・・・１４
沖縄からの便り２３　お話し会「兄弟島・奄美の現状と沖縄」 ・・・・・ 浦島悦子　・・・・１５
いんふぉめぃしょん　第 12 回総会案内　オンライン学習会ほか ・・・・・・・・・・・・・・・１６

写真提供　城村典文　阿部悦子　森紘道　立田卓也　沖本裕司　中村吉且
高井弘之　照屋寛之　鈴木公子　毛利孝雄

激化する奄美群島・沖永良部島の日米軍事訓練

ー「生地訓練」に島民や保育園児も動員されて ー

自然と文化を守る奄美会議事務局長　城村典文

●沖永良部島で２年連続、今年も
日米軍事訓練（アイアン・フィスト）が

地元紙（奄美新聞１月 26 日号）で沖永良部島の海岸で、「米兵士と自衛隊員と島民が海岸清掃で交流」との見出しで記事が掲載されていました。同紙面には、防衛省が24日に発表した『令和6年度の第３海兵機動展開部隊との共同軍事訓練アイアン・フィスト（鉄の拳）』の訓練場所（奄美駐屯地、瀬戸内分屯地、沖永良部島）も告知されていました。沖永良部島では昨年３月に同訓練があり、２年連続の生地訓練（注）になります。私は昨年、抗議のため島を訪れました。

この島での昨年の「離島奪還訓練」は、花の町・和泊町、４月にはエラブ百合の咲く「笠石公園」の珊瑚礁のある海岸で行われました。前日から沖合に米艦船を停泊させ、夜明けとともにエアクッションボートを使って米兵、自衛隊員が上陸する訓練を行なっていました。浜辺には早朝にもかかわらず、地元隊友会をはじめ大勢の島民がかけつけていました。

同日午後、空からの訓練として、知名町の運動公園で米軍 GH ヘリと陸自ヘリがそれぞれ、米兵、陸自隊員を着上陸させました。隊員らは、小銃を構え二人一組で周囲を警戒しながら「敵陣探索行動」を行なっていました。その後しばらくして隣の自然観察の森公園に訓練場所を移しました。そこでは、敵陣目指して、米兵と自衛隊員が声をかけあい、小銃を構えながらの匍匐前進しながら、敵兵を囲い込む襲撃シナリオの訓練を行なっていました。まるで戦場さながらの光景でした。周りには、興味を持つ島民が１０人ほど見物に来ていました。

●「平和の塔」の傍らで
軍事訓練とは！翌日園児も動員して・・・！

この公園の片隅に「知名町平和の塔」の石碑がありました。『軍命のまま聖なる戦争と信じ、・・・身を挺して散華された五百一柱の尊い命の犠牲・・・二度と戦争を繰り返してはならないという決意・・・』という建立趣旨が記されていました。

公共のグランドや公園が「軍事訓練」に使用されても「防衛は、国の専権事項だから」と言う地方分権時代の地方行政の在り方を疑います。訓練の翌日この公園は、「米軍ヘリの展示公開」になっていました。町立の小さな保育園児が動員されて、軍事ヘリの内部を見学し、米兵とのふれあい、記念写真におさまっていました。「こどものたちの将来は・・・」大人・行政の責任が問う事態です。

保育園児らを米軍ヘリ展示会見学に動員？

●鹿児島県は「戦時、奄美群島民 10 万人は
島外避難に 14 日間」と想定

今年１月 28 日には、沖永良部島で「武力攻撃想定・島外避難訓練」を行なっています。鹿児島県は、「国民保護訓練に当たり奄美群島は重要な地域と認識しており、訓練を打診したところ、和泊町、知名町が了承したため」と答えています。今回は、集落区長ら地元住民約３０人が参加し、船舶で本

土に渡る直前までの手順を確認しています。訓練結果を、県危機管理課は、奄美大島以南の島民10万2千人を14日間で避難完了する船舶、航空機ダイヤ案を検討できたと公表しています。当日のテレビ報道には「島を離れたくないという島民を説得する場面の訓練」が映し出されていました。

沖縄戦での「対馬丸遭難事件」のような悲劇を起さないためにも、「国民保護法」を運用・活用させない、政府の武力の放棄、「外交努力の徹底」による安全保障政策の転換を全国民が求めていかなければなりません。

今回「アイアン・フィスト２５」が、２月19日から３月７日まで奄美大島群島で展開されます。

世界自然遺産と国立公園の島、奄美群島は、多様な生物が生息する島であり、人間同士が殺傷し合う島にしてはなりません。お互いの連帯で、戦争への道を止めましょう。　(25.2.17)

奄美群島から始まった「生地（なまち）訓練」とは？

小西誠さん（元航空自衛官、軍事評論家）に聞きました。

●陸上自衛隊の教範にある「対ゲリラ・コマンドウ作戦」を契機として始まった市街地訓練のことで、自衛隊が新しく作った軍事用語。この用語では国民を刺激するからという理由で「生地訓練」とした。このやり方が「島嶼防衛戦」の中の対ゲリラ作戦となり、治安出動態勢下（注）で行われる。「生地訓練」は奄美群島で始まり、これを突破口に先島諸島に広げるという。

（注）　警察の力では治安を維持できない緊急事態に自衛隊が出動すること

新聞報道などでは「生地」に「せいち」とルビを振り読ませているが、小西さんによると、自衛隊内では軍事用語として「なまち」と呼んでいるとのこと。

●昨年10月、日米共同軍事訓練「キーン・ソード25」のさなかに私が訪ねた徳之島、奄美大島では、人々が生活する場所（町立運動公園、国立公園、公民館、青少年自然の家、全ての漁港など）で、立入り規制もなく軍事訓練が行われていた。新聞報道では自衛隊幹部はこの状態に「ここまでやれるとは思わなかった」とコメントしていた。国はこのような方式を今後全国に広げようとしているのではないでしょうか？　（文責・阿部悦子）

全滅状態の「奄美大島のソテツ」から考える

―　「沖縄県土砂条例」の改正・強化を！　―

辺野古土砂全協共同代表　阿部悦子

●　様変わりした奄美大島の風景・・・
軍事要塞化、さらにソテツが枯れて・・・

以前の奄美大島の訪問は2019年の総会時だった。それ以来昨年までの5年間で奄美の風景が余りにも変わった。軍事要塞化が進み、さらには島全体で青々と繁っていたソテツが無残に茶色く枯れていたことも大きい。

このことで私は、土砂全協がこれまで幾度も沖縄県議会に陳情してきた「土砂条例の改正・強化」問題に改めて取り組まなければならないと気付いた。「土砂条例」は「外来生物法」に則り法が定める「特定外来生物」が入ってこないよう施行されたものだ。しかし、法で定めた生物種類は、162種類（2024年7月更新）だが、沖縄県が「沖縄県対策外来種リスト」で規定した種類は、399種（2024年更新）だ。つまり、県が言うように、沖

縄県は「島ごとに数多くの固有種が生息しており、日本本土と比べ生物多様性の高い地域」なのだ。

山一面のソテツが枯れてしまった（24.10.27 阿部撮影）

鹿児島県ＨＰにも集団的に枯れてしまったソテツの写真が掲載され、それには以下のような記載があります。

- **奄美市名瀬で発生した集団枯損**
- **世界中で恐れられているソテツの害虫が奄美大島にも侵入しています**
- **その正体は外来種のカイガラムシ**

したがって現在施行の条例では、多くの危険な外来生物がすり抜けてしまう。

● 奄美の土砂の辺野古への搬出は沖縄の豊かな生態系を破壊する

「ソテツ」を枯らす「カイガラムシ」は、東南アジア原産で繁殖力が強く、海外でも甚大な被害が出ており、鹿児島県や奄美大島の各自治体も危機感をもってその防除を住民に呼び掛けている。しかも、一昨年には、沖縄タイムスが沖縄県内での「カイガラムシ」によるソテツ被害を伝えている。

これまでの土砂全協の申し入れには。沖縄県はこの問題を充分に把握していたが、検討する委員会で自民党などがこの問題を「辺野古埋立て問題だ」として拒み、条例改正が阻まれたのだ。

あくまで「環境・産業問題」としてこの問題を提起し、「特定外来種」以外の沖縄固有の「侵略的外来生物」を知事が指定できるよう条例の改正・強化を求めていかなければならない。　(25.2.18)

（注）　沖縄県に問合せたら、カイガラムシは昨年、「沖縄県対策外来種リスト」に追加記載されたとの回答だった。

奄美の蘇鉄（そてつ）を思う

名護市在住　浦島悦子

25.10.25 阿部撮影
枯渇した奄美市内の公園のソテツ

名護での「阿部さんお話会」で、奄美の蘇鉄がカイガラムシの食害によって一斉に枯れている写真を見て、衝撃を受けた。

蘇鉄は奄美の象徴とも言える植物だ。かつて薩摩の苛烈な圧政に苦しんでいた奄美の人々の命をつないだのが蘇鉄だった。島の平地はすべて、薩摩に黒糖を上納するためのサトウキビを作ることを強要され、米はおろかイモさえ作れなかった人々は、畑の隙間や山の斜面に蘇鉄を植え、そのデンプンを取った蘇鉄がゆで飢えを凌いだ。奄美に蘇鉄の山が多いのはそういうわけだ。旧正月の初興し（仕事始め）にはみんなで山に登り、蘇鉄への感謝を込めて苗を植えるのが習わしだったという。

私が奄美に暮らしていた頃は、毎年、自家製の蘇鉄味噌を作っていた。蘇鉄の花（雌雄別株）が咲く時期になると、山に行って雄花を採取し、それを雌花の上にかけてやるのが仕事だった。虫や鳥任せの受粉より効率がよく、実がたくさん取れるからだ。赤い実が熟すと、家族みんなで出かけ、ティル（背負い籠）をいっぱいにして山を下りる。赤い殻を叩いて割ると、真っ白い身が出てくる。これが味噌の原料だ。潰して麹をまぶし寝かせておくと味噌ができる。蘇鉄味噌は若いうちが美味しかった。

蘇鉄のない奄美は奄美ではない。山々に青々と蘇鉄の繁る奄美を取り戻したい！　(25.2.12)

奄美大島に米軍オスプレイの低空飛行訓練ルート

―「安部墜落オスプレイの事故報告書」から推測する ―

辺野古土砂全協顧問　　湯浅 一郎

１，奄美大島上空は普天間オスプレイの訓練に使われている

今、奄美大島でオスプレイが日常的に目撃されている。これは、少なくとも 2016 年 12 月には始まっていた。その根拠は、2016 年 12 月 13 日、名護市安部（あぶ）の海岸に墜落したオスプレイの事故報告書の分析から、「奄美大島にオスプレイの低空飛行訓練ルートが設定されている」ことがわかっているからである。この点はリムピースの故頼和太郎氏が「安部墜落オスプレイの事故報告書を読む」で詳細に分析している。それによると事故が起きた日、事故機は、奄美での低空飛行訓練、中部訓練場での夜間着陸訓練、そして沖縄島東北部の海上で空中給油訓練という 3 つの訓練を一連のものとして行う計画になっていた。そのうちの奄美ルートを拡大したのが図１の黒い線のルートである。

図１　奄美大島のオスプレイ用低空飛行訓練ルート
（AMAMI LAT ROUTE）（安部事故報告書から故頼和太郎氏作成）

2012 年の普天間配備後、従来から知られている 6 本の低空飛行訓練ルートでのオスプレイの目撃情報はほとんどなかった。図１の奄美のルートは、オスプレイ配備前の環境レビューに出てくる戦闘攻撃機などが飛ぶ低空飛行ルートとは全く別ものである。

安部事故の後も奄美での目撃は続き、低空飛行ルートは継続して使われている。それどころか訓練空域と化している疑いがある。例えば 2024 年 9 月 9 日、住民団体が鹿児島県に出した陳情書には、「最悪の野蛮飛行は 6 月 25 日で、奄美市名瀬・上方地区から下方地区上空で 5 回（5～10 分間隔）の回旋飛行が行なわれている。7 月 10 日の 20 時台には 6 回の回旋飛行が行なわれた」とある。これは、飛行コースで囲まれた範囲で繰り返し旋回飛行し、線で囲まれた範囲を訓練空域にしていることを意味する。

２，辺野古新基地ができれば、奄美のオスプレイ低空飛行ルートは恒久化する

普天間基地は、ヘリコプター部隊を中心に 58 機の軍用機が配備される米海兵隊航空基地である。その中心を担うのは 24 機のオスプレイである。仮に普天間基地を移転する辺野古新基地ができればオスプレイ用の奄美ルートは恒久化し、奄美は基地被害の当事者であり続けることになる。辺野古新基地埋立てに奄美からの石材、岩ズリの供給を許すことは、辺野古新基地建設に手を貸すこととなり、結果として奄美のオスプレイ飛行の恒久化を引き寄せることになる。逆に土砂の持出しを許さなければ、辺野古新基地建設を止めることにつながる。

現状ではオスプレイの奄美での飛行実態の全体像は見えていない。住民の目撃情報を集約し飛行実態の全体像をまとめ、安部事故報告書から見える奄美ルートとの関連性を検証するべきである。その結果を地元自治体・鹿児島県に示し、奄美に新たな低空飛行訓練ルート、あるいは訓練空域があるとの認識を地域で共有することが急務である。　　(25. 2. 2)

詳細は「平和軍縮時評」 2024 年 10 月号 参照
（フォーラム平和・人権・環境 HP）
http://www.peace-forum.com/p-da/jihyou202410.htm

奄美市住用町市集落から

南西諸島の防衛と奄美大島の土砂問題を考える

奄美市住用町市集落在住　森　紘道

近年のアメリカの極東戦略は、太平洋への進出を目論む中国を世界の安全保障の懸念材料であるとして、九州－沖縄－台湾－ボルネオを結ぶラインの内側に中国を封じ込めることにある。日本の自衛隊と一体となって、九州から琉球諸島への軍隊の配備強化を進めており、現地沖縄県の反対を押し切って断行している辺野古の埋め立てもそのひとつである。

●奄美大島から辺野古への土砂搬出で故郷はさらに様変わり

辺野古の基地建設には莫大な量の土砂・岩石が必要とのこと。その原材料の産地として今注目を集めつつあるのが奄美諸島である。奄美大島には数多くの採石場があり、盛んに採石とその積み出しが行われている。奄美諸島は先年、沖縄とともに貴重な動植物が生息するとして世界自然遺産に登録された。しかしその一方では採石などのために奄美の自然は少しずつ破壊されつつあると言っていい。

採石場から流出する赤土で茶色に染まる集落の前の海

採石によって青々としていた緑の山は赤肌をさらすようになった。”山が荒れれば海も荒れる”。私は50数年ぶりにシマに帰ってきたのだが、何より驚いたのは、特に梅雨時になると採石場から流出した赤土で、集落の前に広がる海が全面茶色に染まった光景を見たときである。幼い頃は海岸でアワビ、サザエ、タカラガイ、タコ等が採れたのだが、今まではめったに見かけることもない。またひっきりなしに通行する採石場からのダンプで道路も荒れ、時には採石現場の崩落により土砂で埋まった道路は通行止めとなったりする。積出港近くに住む住民は騒音とホコリによる大気汚染に何年も悩まされ続けている。行政当局に訴えてもなかなか腰を上げようとしない。これが現実である。

2012.10.9 撮影　集落から見える採石場の遠

●奄美群島の一つ、沖永良部島では、生活圏で軍事訓練が続く

中国を仮想敵とするアメリカと一体となっての日本の安全保障政策のあり方は果たして有効なのであろうか？　奄美諸島は、北から喜界島・奄美大島・加計呂間島・請島・与呂島・徳之島・沖永良部島・与論島の８つの島で構成されている。人口はおよそ10万人。1月28日には武力攻撃を想定した、一部住民も参加しての島外避難訓練が、沖永良部島で行われた。同日には鹿児島県庁でも災害対策本部室で関係機関による連絡調整会議と図上訓練があり、有事の際の本土への避難には約 14 日を要することが確認されたと、地元の新聞でも報じられていた。奄美群島で 14 日も要するという日数の長さには驚きとともに不安を禁じ得ない。

先の戦争では終結までに４年の歳月を要し、日本人の犠牲者だけでも約300万人に上るという。再び戦争となればその犠牲は計り知れない。それを考えれば、非戦の道を追求するのが上策であり、それが政治ではなかろうか。それを疎かにして戦争の準備をするというのは、政治的能力の無さを暴露しているだけではなかろうか？　　(25.2.14)

奄美市住用町戸玉集落で話をお聞きして

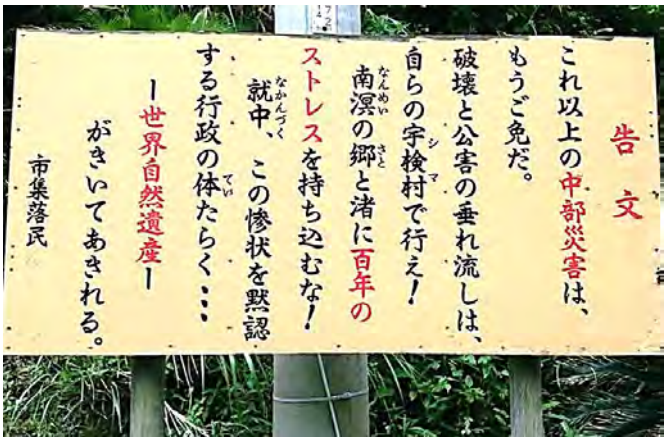
「最後の闘い」～戸玉区長の言葉～に、私たちは

辺野古土砂全協事務局次長　立田卓也

1992 年６月のリオ・デ・ジャネイロでの国連環境サミット。世界の、特に「先進国」と言われる政治家大人たちに向けられた１２歳の少女の、「どうやって直すのかわからないものを、壊し続けるのはもうやめてください」という訴えは、同世代のあの頃の私にも届いていた。

あれから 33 年。もう既にこの時には、奄美大島住用（すみよう）町戸玉（とだま）と市（いち）集落では、採石業者による環境破壊が進められており、住民の方々の苦闘があった。多年にわたり幾度も事故に声をあげながら（県が把握するだけでも５度の土砂流出）、その詳細を地元紙も折々報じていながら、議会にも訴えながら、国会でも質問がなされていながら止められないことに。

「採石場の中に集落がある」。戸玉区長のこの一言は、沖縄で聞かれる「米軍基地」と同じくする。「窓に砂が積もって家の中はザラザラ」、「搬出している戸玉港は人家から 60m しか離れておらず、粉塵と騒音と振動被害に耐えられない」、「車止めもない桟橋は 1m沈下、ひび割れている」、「事業者は夜中に上流の戸玉川から調整池の汚濁水を流す。埋蔵量はあと 30 年あると豪語」、「カヌーも準備している」、「父親世代から２代にわたって 40 年、最後の闘いにしたい」。そして昨年、辺野古新基地建設の土砂を奄美から出すという防衛局の動きを受けて、戸玉区は、搬出場所の解決を求めて「（地元の）戸玉港を使うのではなく新設整備した山間（やんま）港を使うように」との請願を出された。戸玉地区の方々にとって土砂の民生利用も軍事利用も関係ない。開発主義、採掘主義こそが軍事拡大への道筋ではないのか。



「破壊と公害の垂れ流しは自らの地域で行え」という市集落の掲げる告文の叫びは、「日米安保体制は大事」と言いながら、自分の地域にはそれは置きたくないと言えてしまう世論調査７割のヤマトに向けられたものでもある。いわゆる NIMBY（Not In My Back Yard）の心情。これに自ら蓋をすることなく自分の内にあることを認め、実際に向き合って闘ってこられた戸玉や市の人々（そして沖縄で基地建設反対で闘ってこられた先人）の姿を想起する。私たち外部の人間が、気づきを与えられ変えられていく。 戸玉区長が口にされた「最後の闘い」に、 私たちが起こせる行動が伴っていけるように。　　(25.2.13)

目下全力で取り組んでいる、「奄美土砂搬出反対全国署名」には、送料など諸経費がかかります。心ある皆様の署名運動を支えるカンパをお願いします。

2025 年度会費のお願い

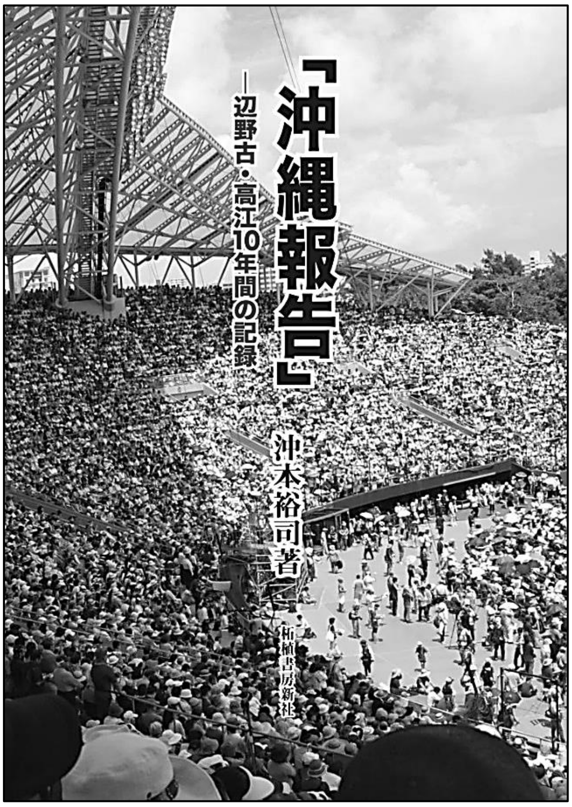
会費　団体：10,000 円　個人：　3,000 円

辺野古土砂全協は 2015 年の創立以来皆様のご支援ご協力に支えられ、間もなく 11 年目に突入します。2025 年度団体・個人会費のお納めをお願いします。カンパ熱烈大歓迎！

郵便振替口座　番号　01750―8―144158　名義　辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

『沖縄報告　辺野古・高江 10 年間の記録』発刊！

島ぐるみ八重瀬の会事務局長　沖本裕司



2024 年 12 月 10 日初版発刊
発行　柘植書房新社
（TEL 03-3818-9270）
A-5 版並製 408 頁　**3,300 円**（税込）

書店で品切れの場合は、
出版社にご注文されるか、または、
沖本（090-1948-6673）までご連絡下さい。

＜ 目 次 ＞

第１部 辺野古・高江 闘いの 10 年
1．翁長雄志知事の誕生と埋立承認取消
2．代執行裁判の「和解」
3．高江ヘリパッド建設阻止闘争
4．辺野古埋立工事の再開
5．埋立承認撤回と玉城デニー知事の当選
6．県民投票
7．埋立変更申請不承認
8．沖縄を再び戦場にさせない！
第２部 海を越えて手をつなごう！
1．韓国の市民運動との交流・連帯
2．東シナ海・平和の海キャンプ
3．香港の自治と民主主義
4．彦山丸犠牲者の遺骨収容
5．尖閣諸島の領有権をめぐって
6．南京・沖縄をむすぶ民間交流
第３部 沖縄の自立と解放をめざして
1．辺野古の闘い・結果と展望
2．沖縄情勢の現段階と展望
3．県知事選挙と今後の展望
4．沖縄反基地闘争とアジア
5．コザ反米暴動について
6．沖縄闘争のさらなる飛躍を！
7．沖縄の本土復帰 50 年にあたって

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

私は、翁長雄志知事の誕生を契機に「沖縄報告」を書き始めました。この 10 年間で、A-4 版にして 1500 枚、写真は掲載分だけで数千枚に及び、カメラは 4 代目になりました。本書は「沖縄報告」10 年間のダイジェストです。2016.4.24 付に、辺野古土砂全協が名護市屋部で開いた 4.18 学習交流会の記事が掲載されています。ふるさとの土砂を戦争に使わせない！熱気にあふれた 300 人の集まりが、３人の講演と各地の報告と共に記録されています。沖縄のこの 10 年間は、運動の規模とエネルギー、大衆運動と行政との連携、既成の政党の枠を超えた県民規模のうねりなど、歴史的な闘いになりました。しかし、日米両政府は相変わらず沖縄を軍事の島としか見ていません。過ぎし 10 年を振り返り今後の闘いをいかに進めていくかを検討して行くうえで、本書をご活用いただければ幸いです。　（25.1.26）

大浦湾は海洋工事作業船のショールーム

遅々として進まない辺野古新基地建設、その原因は……

海のテント村　中村吉且

辺野古新基地建設工事が進められている大浦湾を見ると、ここは海洋工事作業船のショールームかと錯覚してしまう。

とりわけ目立つのが、赤白に塗り分けられた櫓（リーダー）が 3 本屹立するサンドコンパクションパイル（SCP）船。2 月 7 日現在、不動テトラ社の「ぱいおにあ第 30 フドウ丸」「ぱいおにあ第 31 フドウ丸」、日本海工の「第 80 光号」「第一光号」、あおみ建設の「KSC-K75」が大浦湾にある。金武湾にある井森工業の「天成」もやがて大浦湾に来る可能性がある。

25.2.9　二見トンネル周辺から見た大浦湾

その他、A 護岸で鋼管矢板を打つ杭打ち船、海底に砂を撒くトレミー船「第 3 伯新」、土砂や海砂、時には鋼管矢板の置き場として使用されている深田サルベージのデッキバージもその存在感を示している。海砂採取船の「太海丸」も頻繁に出入りしている。来て早々に油流出事故を起こした「第一金剛丸」、内間土木の「第二内間」、長崎の西海建設多目的起重機船「第六長崎号」……。安和桟橋や本部港塩川地区から土砂や栗石を運ぶガット船、栄雄丸、第八高砂丸、美鍛丸、marumasa……。ガット船から土砂を積み替えて陸揚げする台船。1 月までは「海竜」「第八大港号」「新潮丸」などのボーリング調査船も存在していた。

他にも作業員や沖縄防衛局の職員、海洋調査の調査員等が乗船する小型船。警備担当の海上保安庁のゴムボート（GB）、警備会社の警備船、そして海人の警戒船。ざっと見て 30～40 隻はあるだろうか。ゆくゆくは 100 隻の作業船が投入されるということだから、立錐の余地もなくなるだろう。

これだけの作業船が湾内を行きかっていれば、新基地建設工事は順調に進んでいると誰しもが思うに違いない。しかしそれこそが、政府・防衛省の目論見なのだろう。

玉城デニー沖縄県知事が大浦湾の設計変更を承認せず、国土交通大臣が知事に代わって設計変更を承認する「代執行」という暴挙に出て 1 年以上が経過した。「代執行」直後の 2024 年 1 月 10 日に開始された海上ヤードの捨石投下は、6 月 28 日の安和桟橋死傷事故で中断され、12 月に再開されたが、これまでに全投下量のダンプ 3 万台分の三分の一にあたる 1 万台分ほどが投下されているにもかかわらず、いまだに同じような場所に投下され続けている。

8 月 20 日に開始された A 護岸の鋼管矢板打込は間もなく半年になるが、打込まれた本数は 60～70 本。1000 本の鋼管矢板が打ち込まれる予定だが、このペースだと 10 年はかかるのではないか。本年 1 月 16 日には徐々に打ち込まれるはずの矢板が、するすると海中に没する光景が目撃され、その後 3 週間ほど矢板打込が中断される事態が発生している。

昨年末御用納めの翌日 12 月 28 日開始のトレミー船による軟弱地盤への敷砂作業も、とても順調とは思えない。敷砂の範囲は 66ha にも及ぶ。軟弱地盤に 7 万 1 千本の砂杭を打込む SCP 船は 5 隻もあるが、稼働は 1 隻のみ。これまで打込まれた砂杭も 40～50 本ではないか。砂の確保も順調とは思えない。

工事開始早々から、大浦湾に基地を作ること自体が難工事であり、無理なことがすでに証明されている。「12 年以内の完成」は虚言でしかない。これ以上の大浦湾の破壊を食い止めるために、一刻も早い工事の中止が求められる。　　(25.2.10)

沖縄・奄美から西日本に拡大する「対中国戦争態勢」

― 各地・各人が連帯して戦争を止めるための共同の闘いを！ ―

ノーモア沖縄戦 えひめの会　高井弘之

◆構築される臨戦態勢

沖縄・奄美を中心に 2010 年代後半から構築されて来た「中国への戦争態勢―軍事拠点化」は、いま、九州を中心に西日本に拡大している。

日米の軍事演習では、各地の民間空港・港湾・公道が使われ、部隊の輸送に民間船舶も使用されている。琉球弧―日本列島は、まさに、「対中戦争マシーン」にされつつある。

また、米日・NATO 諸国によって、中国に「脅威」を与える合同軍事演習が日本全土を使って繰り返し行われ、「対中軍事包囲網」の構築がなされている。

いま目前で進行しているのは、「大軍拡」を超えた、まさに、臨戦態勢の構築である。私たちはいま、再び戦争を始め加害行為を犯し、その結果、被害も受ける状況に至る、その歴史的岐路に立たされている。

◆中国包囲網から脱して平和の実現を！

しかし私たちには、この新たな戦争を止めるための確実な方法が存在している。それは、米国を中心とする「中国への戦争態勢―軍事包囲網」から日本を抜けさせることである。米国は、日本を使わずに、はるか遠くからの遠征軍だけで中国に勝利できる展望を持っていない。したがって、日本を抜けさせれば、米国は戦争を起こせず、東アジアでの戦争を防ぐことができる。

これを実現させるために必要なことは、現在の大軍拡の理由―推進力となっている「中国脅威論」の虚偽を暴き、世論を変えることである。このことを目的として、私が所属する「ノーモア沖縄戦 えひめの会」では、中国がいま日本を攻撃する理由もメリットもなく、その素振りさえ見せていないことを明らかにしたリーフレットを作成し、[戦争をさせない中国への戦争準備をストップ　リーフレット 100 万部配布プロジェクト] を実行している。ぜひ、ご協力いただきたい。

◆市民・民衆の共同の力で戦争を止める！

そして、戦争を止めるために最も大事なことは、各地・各団体・各個人がつながり合い、連携・連帯して共同の闘いを行うことである。

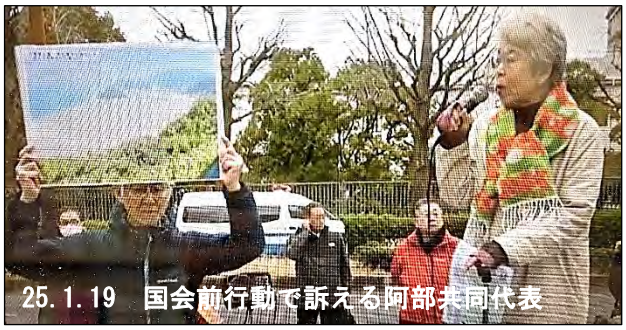
急激な軍事拠点化が進む沖縄・西日本に住む私たちは、互いにつながって、各地の状況を共有し、連携・連帯して、地域を超えた共同の闘いを行うための「ネットワーク」の構築を目指して来た。昨年 4 月の愛媛を皮切りに、8 月に沖縄、9 月に呉、11 月に大分で、「沖縄・西日本 交流連帯集会」を重ね、そして、今年 2 月 22 日に鹿児島で、「戦争止めよう！ 沖縄・西日本ネットワーク」結成集会を行う予定だ。そして、6 月初めには、沖縄・西日本各地から東京へ出かけての「共同行動」を予定している。

これらの活動をステップに、その後は、全国レベルでの共同行動など、全国的な闘いも展開し、「国家による国家のための戦争」を、私たち市民・民衆の力で必ず止めたい。　　(25. 2. 12)

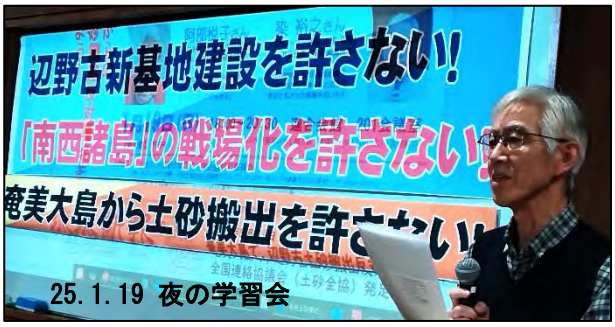
奄美大島からの土砂搬出阻止が辺野古埋立てを止める

辺野古土砂搬出反対！首都圏グループ　山崎眞純

◆ 1,19国会前行動と学習会で奄美土砂搬出反対を呼びかける


25.1.19　国会前行動で訴える阿部共同代表

防衛省が奄美大島からも土砂の調達に踏み切ることを言及したため、土砂全協の阿部悦子共同代表が上京し、1月19日（午後2時）の総がかり国会前行動（800人）に参加し発言した。訪問した奄美は軍事要塞化され「生地（なまち）訓練」と言って人々の生活の場所で日米の軍事訓練が行われていた。このような時に防衛省が辺野古の土砂1190万㎥（ダンプ250万台）もの土砂を辺野古に運ぼうと計画している。土砂採石場周辺の住民は長年被害を被り、「反対運動は孤軍奮闘しているように見える」と先行きに強い危惧を示すも、奄美の海を守るためにも辺野古への土砂を止めよう訴え、反対署名運動を呼びかけた。



25.1.19 夜の学習会

夜には「南西諸島」から全国に広がる自衛隊配備を問う学習会が行われた。緊急の呼びかけにもかかわらず80人以上の参加があった。講演では国会前での発言をより詳細に具体的に肉付けする形で奄美の採石・土砂の実態、土砂採掘の現地調査と管轄する各市町村の副市長、村長らと面談し、辺野古への特定外来生物含む土砂を移動させないよう要請したが、大和村村長を除く市町村長は、国からの要請があれば土砂搬出を容認する方向であると返答があったことを明らかにした。また、自衛隊配備、日米共同軍事訓練（キーンソード25）による山野の被害など多岐にわたり報告された。続いて染裕之さん（そめひろゆき「フォーラム平和・人権・環境」共同代表　奄美出身）は、日本のリスクが見えないまま日米一体化は危険、9条憲法平和主義、国際協調に立つべきと述べられた。

19日の国会前行動と学習会で、「奄美からの土砂搬出を止めることが辺野古基地建設を止めることになる」と人々に伝えたことは有意義なことだった。

25.1.19 夜の学習会

◆ 奄美の土砂搬出を止めれば辺野古基地建設をストップできる

防衛省は当初、辺野古埋立て土砂は県外から調達すると計画していたが、沖縄県の土砂条例の成立などにより、県外からの調達を断念して一旦は全量沖縄で調達する旨方針変更したが、主力調達先の南部土砂は遺骨混じりのため、沖縄県内外からの猛烈な反対に押されて南部からの調達は保留となっている。このため昨年9月に奄美群島に現地調査に入り、辺野古土砂埋立総量の2/3の土砂調達が可能として不足分の調達を目論む。国は、それほど辺野古の埋立て土砂調達に窮していると思われる。奄美大島からの土砂搬出を止めることが辺野古の基地建設を止めることになる。県外側の運動として土砂搬出を阻止しなければならない。この運動が奄美と辺野古大浦湾の自然を守ることにもなり、反戦平和への道程でもあるからだ。　　(25.2.6)

沖縄県うるま市

宮城島土砂搬出へ市民の怒り！

うるま市島ぐるみ会議共同代表　照屋寛之

沖縄防衛局は、昨年の 11 月 20 日からうるま市の島しょ地域、宮城島から大浦湾の軟弱地盤の埋め立てに使用する土砂の搬出を始めた。30 万㎥の採掘で、大型ダンプで計測すると 6 万台と想定されている。多くのうるま市民は、21 日の「琉球新報」「沖縄タイムス」の土砂搬出記事の写真で山が削られている姿に愕然とし、止めどもない怒りがこみ上げた。一度破壊された自然環境を回復することは不可能だ。「琉球新報」は社説で〈島を削り基地造る愚行だ〉の大見出しで、「自然が豊かな島を削って運び出した土砂を美ら海に投じ、県民の幸福に逆行する新基地を建設する。あまりにも愚かな行為であり、即刻中止を求めたい」と、手厳しく批判したのは当然であり、即刻中止すべきだ。

うるま島ぐるみ会議を中心に早朝からダンプの出入口で阻止行動を行っている。農道を使用する土砂搬出には問題点がある。まず、土砂運搬車両が利用する宮城島の道路は農道であり、構造上農作業用の車やトラクター等などを想定しており、大型ランプなどが利用する構造設計ではなく、大トラックの場合、台数に限度がある。この件は、県議会でも取り上げられ、農林水産部長は「宮城島の農道は 1 日あたり 15 台から 40 台未満の大型車両の交通を想定した設計基準で施工され、想定以上の交通量は舗装面を破損し農業用車両や一般交通に支障をきたすことが予想される」ことを明確にした。農道の管理者はうるま市であり、40 台以内に制限するのは当然だ。同時に、6 万台の土砂を運ぶには 3 年以上の期間を要する。この期間、農道を専用的に使用することは、農道の目的外使用であることも忘れてはならない。農道が破損すれば、農作業、住民生活にも大きな影響がでる。

うるま島ぐるみ会議は昨年 12 月 17 日、中村正人うるま市長に「宮城島からの土砂搬出に関する要請」を行い、島々の自然環境を壊し、生活、産業、交通等に大きな弊害をもたらす宮城島からの土砂搬出を直ちに中止させること等を要請した。

去る 1 月 29 日にその回答があった。中村市長は、外交・防衛は国の専権事項であるとの考え方であるが、憲法、地方自治法上、その根拠は見い出せない。40 台以上搬出させるための詭弁に過ぎない。中村市長は、市民の声より防衛省の意向を最大限に尊重していることが改めて浮き彫りにされた。なぜ防衛省に阿諛追従するのか、疑問は尽きない。市民の声を真摯に受けとめ、土砂の搬出を止めることが市長の責務である。　(25. 2. 10)

足元に忍び寄る戦争

― 1月17日、名護市街地での軍事訓練を阻止！ ―

カヌーチーム「辺野古ぶるー」　鈴木公子

日本政府は、1月29日ついに命育む大浦湾の軟弱地盤に砂杭を打ちこんだ。

違法に採取した海砂を使って海を破壊し、沖縄の伝統文化である旧暦の正月を寿ぐこの日に、大浦湾を壊滅的に破壊する砂杭を打ち込む日本政府は何重にも沖縄を蹂躙する。

さらに、陸上では1月17日名護市街で陸上自衛隊第15旅団が防災の名目で軍事訓練を行った。

市民が集う公園にヘリを着陸させ、隊員が市街を行軍するのだ。

しかも、1月17日は阪神大震災の日であり、被災した方々を想う鎮魂の日に敢えて、「防災」という名目での軍事訓練なら市民が納得しやすい、とでも考えたのではないだろうか。

戦争が忍び寄る足音が聞こえてくる。

名護市街地を行軍する陸上自衛隊

名護市から市民への周知は、前日16日18時30分に市のホームページへ載せただけで、「防災訓練」といいながら、市民は知らない方がいい、としか思えない市の態度だが、かろうじて気付いた私とCさん2人でヘリ着陸場所の公園へ駆けつけた。

自衛隊車両が二台と数人の隊員がいるだけで緊張感はないが、上空をヘリが旋回している。

着陸予定時間は10時30分。10時過ぎに自衛隊員が、「ヘリが着陸する、危険なので移動して欲しい」と言ってくるが、「抗議に来ているので、退くつもりつもりはない」と伝えたところ、しばらくして「退いてもらえないなら訓練を中止する」という。

頭上を掠めて旋回するヘリＣＨ−４７

機動隊を呼んで排除させるとか、もっと強い態度に出ると思っていたので拍子抜けしたが、中止に追い込まれた腹いせだろうか、ヘリが、手が触れそうなくらいの低空で私達の頭上を旋回して戻って行った。

今回は、自衛隊が私たちの行動を想定していなかったので、わずかな人数でヘリの着陸を止められたが、1月28日には、防衛省の報道官が「市民の抗議は残念であり、今後は関係自治体と連携し適切に対応すると」コメントしている。「適切な対応」とは抗議する者を力でねじ伏せるということ。

これから各地で頻繁に行われるであろう軍事訓練を阻止するのは簡単ではないけれど、日々じわじわと忍び寄る戦争準備の異様さに反応し、行動しなければ自由は守れないところに今、私たちはいる。　(25.2.4)

本部町からの報告

２月８日 パワフルなお話し会

本部町島ぐるみ会議　原田みきこ

ここ本部町は日本で一番早く桜が咲く。寒緋桜という名の如く、寒い季節に咲き、花びらは濃い緋の色だ。小さい花はまるで桃の花のようにも見える。寒緋桜が一斉に咲き出すと山々が明るく感じられる。

●奄美大島の土砂問題で

2 月 8 日本部町島ぐるみ会議は、阿部悦子さんをお招きして「奄美の現状と沖縄」というお話し会を開いた。第一部は「土砂問題」で阿部さんが訪問した奄美大島の 4 市町村訪問のお話など、第二部は軍事化が進む奄美大島と徳之島のお話し。当意即妙で迫力ある説明とリアルな映像が重なって分かりやすい。プロジェクター操作は愛媛県出身で人形劇団主宰者立田卓也さん。現在は宜野湾市で活動していらっしゃる。阿部さんは相手が土砂搬出に賛成している首長でも説得を試みる。その勇気に脱帽。沖縄の運動では相手が 基地容認派と分かるとあきらめてしまう場合もある。阿部さんのまっすぐな行動はとても新鮮に映った。アッという間に第一部が終わり、阿部さんは「このまま第二部に入りたい」とおっしゃる。「暑い、暑い」と上着も脱いでしまわれる。あまりのパワフルさに参加者呆然。見回せばダウンコートを脱がない人ばかり。

●八重岳での新たな闘いが始まる・・・

15 分間の休憩をいただいて、30 代で県会議員になった弁護士の儀保ゆいさんのスピーチ、日高さんご夫妻に拠る八重岳レーダー新設問題の紹介。八重岳は沖縄戦で女学生中学生が命を落とした場所。本部町では桜の並木を造って再び戦場にされないことを願っている。元旦には初日の出を拝む場所でもある。ここが、38 年間の休眠を破って、新設されようとしている。3 年前に自衛隊がアンテナを積んで侵入しようとしたが追い返している。しかし、防衛局の日程表ではこの 3 月に工事着工とある。塩川、安和に続く戦いの現場ができる。阿部さんの貴重な時間をいただき、町民の方々にお知らせできたことは幸いだった。

●奄美群島では、
生活圏が日米軍事演習に使われるとは！

第 2 部では特に徳之島の演習が衝撃的だった。日米を中心とした NATO 軍の演習が民間地で行われたのである。一坪の基地もない徳之島は長閑で平和な島。そこで軍事演習とは！とうとう日本はここまで来たのかとショックだった。観光客歩く後方で演習する迷彩服の兵隊たち。一瞬戦場に人がまぎれ込んだのか？と思ったが逆だった。観光地や生活圏に NATO 軍が侵入したのである。四国、九州、中国そして北海道までこの光景が広がっていくのではないだろうか。阿部さんの「民間地だろうが民間の港だろうが空港だろうが使われていくだろう」という言葉が現実味を帯びる。全国に警鐘を鳴らしていかねばならない。奄美の署名運動が足がかりとなるようにしたい。　(25.2.13)

沖縄からの便り
≪連載 №23≫
いちゃりばちょーでー

2月8･9日 本部と名護で 阿部悦子さんお話し会 「兄弟島・奄美の現状と沖縄」

ヘリ基地いらない二見以北十区の会　浦島悦子

昨年12月、新年度(2025年度)にも始まるかもしれない奄美からの辺野古埋立土砂調達を何とか止めようと、辺野古土砂全協が始めた全国署名を沖縄県民にアピールするために阿部悦子共同代表が来沖された折、本部・名護の女たちでささやかな歓迎会(食事会)を持った。その席で、9月の阿部さんたちの奄美訪問で明らかになった奄美大島の採石場の実態や急速な軍事要塞化(『つながる力』28号掲載)が、沖縄ではほとんど知られていない、ぜひ伝えて欲しいという希望が出て、とんとん拍子に「お話し会」の実施が決まった。その間10分足らず(阿部さん曰く「私がトイレに行っている間に決まっていた」)。女たちは決断が早いのだ！(笑)。

土砂協事務局の立田さんに作成して頂いたチラシを最大限配りまくって、2月8日(土)に本部，9日(日)に名護で、阿部悦子さんお話し会を開催した。テーマは「兄弟島・奄美の現状と沖縄」。主催は、本部と名護の女たちによる実行委員会。私が事務局長を務める「いーなぐ会（名護市政を考える女性の会)」を共催とした。いーなぐ会は2016年3月、土砂全協が発足して間もない頃、阿部さんをお呼びして「それぞれの故郷を守ろう！――辺野古への土砂搬出に反対する全国の闘い」学習会を行った経緯がある。

私は本部の会には参加できなかったので、名護だけの報告になるが、参加者は40人。広報を頑張った割にはちょっと少ないかな…という感じだったが、北部での開催に、うるま市（沖縄島中部）から駆け付けてくださった方もいて感激した。

阿部さんのお話は、1部が奄美大島の土砂問題、2部が奄美群島の軍事化(沖縄島・奄美の一体化)。映像をふんだんに使ったお話はどれも濃密で深く、私はかつて、私が奄美大島に暮らしていた頃(1980～90年）とのあまりの落差に衝撃を受けた。参加者は辺野古の闘いの現場（ゲート前、安和・塩川、海上）で頑張っている人たちが多く、共感共苦しながら、食入るように視聴していることを感じた。

その思いが伝わってか、阿部さんのお話にも熱が入り、質疑応答の時間に食い込んでしまったので2時間の予定を15分間延長した。

しかし質問の大半が現在、大浦湾の軟弱地盤改良工事で問題になっている「海砂問題」に集中し、本来のテーマについての意見交換ができなかったことが、司会を務めた私の反省点だ。

現在、行政的には沖縄県と鹿児島県に分けられているものの、かつては共通の歴史を持ち、また風土的にも共通する奄美と沖縄。奄美の人たちが「兄弟島」と呼ぶ沖縄から少しでも応答できないか、という思いもあっての報告会だったが、沖縄側も直面する課題で精いっぱいの側面もあり、仕方なかったかなとも思う。その中で、ヘリ基地反対協海上行動(カヌー)チームのKさんが、住用町戸玉集落の浦口区長の願いに応えて、カヌーによる抗議行動を具体的に応援したいと発言したことを、阿部さんはとても喜んでおられた。

お話し会の最後が「海砂問題」になってしまった反省はあるが、土砂協としてもこれから取り組もうとしている課題であり、今後に繋がるきっかけとしてはよかったと思う。また、質問は出なかったとしても（知らなかった衝撃の方が大きかった？)、参加者の胸には奄美の現状が刻み込まれ、今後、それが活かされていくだろうと信じている。

阿部さん、そして映像操作をして下さった立田さん、ありがとうございました。　(25.2.10)

辺野古土砂全協第12回総会開催案内

開催日　5月24(土)～25日(日)　24日14：00より開催（予定）
開催地　奄美大島　　会場：奄美ポートタワーホテル
≪**奄美市名瀬塩浜町4-12　奄美空港からバスで60分　一泊6,500円**（20名分予約済み）≫
詳細は議案書ともに、総会開催要項を送付（4月末予定）します。まずは、あなたの予定表に入れて下さい。**24日は14：00までに会場に必着できるようお出かけ下さい。**

奄美大島からの土砂搬出・
「代執行」下の辺野古工事を問う
全国署名第一次提出　＆
防衛省交渉　＆　院内集会
日時　4月10日（木）14：00～16：45
会場　衆議院第二議員会館1F・多目的ホール
北上田毅さん講演会
辺野古「代執行」の現状と今後、私たちの課題
日時　10日17：30～19：30　同会場

辺野古土砂全協 HP の
URLを変更しました
http://dosyazenkyo.com/index.html
「**土砂全協**」で検索すると、新しいページが紹介されます。

辺野古土砂全協オンライン学習会開催のご案内

≪　第３回　≫	≪　第４回≫
海砂採取問題	埋めて用建造物「ケーソン」とは
日時：3月7日（金）　１９：００～	日時：4月4日（金）　１９：００～
講師：湯浅 一郎さん（辺野古土砂全協顧問） 北上田 毅さん（辺野古土砂全協顧問）	講師：北上田 毅さん（辺野古土砂全協顧問） 柴田 天津雄さん （辺野古のケーソンをつくらせない三重の会）

申込先：立田卓也　＜090-8282-6077　tateda.dosyazen@gmail.com＞
参加費：1000円　　学習会参加費は、振替用紙通信欄に「学習会参加費」と明記の上、下記の郵便振替口座に払い込み下さい。開催前の払込みが原則ですが、**難しい場合は後日の振込みでもOKです。**
まずは学習会にご参加下さい。参加のご連絡をお待ちしています。

≪辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース つながる力29号≫　2025年2月25日
発行責任者…全国連絡協議会共同代表　阿部悦子（環瀬戸内海会議）　hibi_etsuko@yahoo.co.jp
大谷正穂（山口のこえ）　masahootani@gmail.com
編　　集…松本　宣崇（環瀬戸内海会議）　nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp
HPURL…http://dosyazenkyo.com/index.html
事 務 局…〒700-0973　岡山市北区下中野318-114　松本方　TEL･fax　086-243-2927
連 絡 先…〒794-0026　愛媛県今治市別宮町9-7-4　阿部悦子　TEL　090-3783-8332
振 込 先…郵便振替　番号　01750-8-144158　名義　辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会